

平成30年度事務事業評価シート(29年度実績)

◎基本情報

事務事業名		学校安全施設整備事業		担当部署	教育委員会 教育総務課	
総合計画体系				根拠法令 計画など	学校教育法第5条、地方自治法第180条8、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第1項第7号都市公園における遊具の安全確保に関する指針	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり		事業期間	開始	平成 18 年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なんと			終期	未定
(小項目)		教育行政				
施策	1	教育行政の充実				
基本事業	7	安全で安心な教育環境の整備充実				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内の幼稚園・小中学校に設置している設備等						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	園児・児童・生徒たちが安全に、かつ安心して遊び学べる施設環境を整備していくために、必要な施設等の改修を行い、安全な学校施設とする。						
事業計画	29年度に何を計画していたか	各学校(園)の施設改修や老朽化した遊具の撤去・設置、また防犯設備の充実など、児童生徒の安全確保に向けた整備を行う。また、平成26年度からの6カ年の計画で実施している「防犯カメラ及びセンサーライト」の配備について、未整備の学校への設置を進める。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	単位
		事業対象件数のうち改修や設置などにより改善する学校施設・遊具件数	155	202	222	242	262	件

◎実施結果(DO)

事業実施内容	29年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	現地調査やヒアリング等をもとに、各学校施設で安全上・防犯上設置や改修が必要な施設・設備を集計し、早急に対応すべき事案について予算内で整備を行った。また、「防犯カメラ及びセンサーライト」について、年次計画に基づき未配備の学校への設置を行った(小学校5校)。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		28年度実績	29年度実績	30年度目標	31年度目標	32年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 前年度までに改修や設置を行った件数	135	182	208	228	248	件
	2 年度中に改修や設置を行った件数	47	26	20	20	20	件
成果指標 対象にどのような効果があったかを示す指標	事業対象件数のうち改修や設置などにより改善する学校施設・遊具件数	182	208	—	—	—	件
	目標達成率(実績/目標)		103.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成29年度	当初予算額	0	0	0	0	10,000	10,000
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	10,000	10,000
		決算額	0	0	0	0	9,991	9,991
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,234千円/人)	臨時職員(2,492千円/人)		総人件費		総事業費	
	0.2	0.0	1,447	11,438				

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：学校安全施設整備事業】

事業費推移	年度	28年度決算	29年度決算	30年度	31年度	32年度
	事業費	9,964	9,991	10,000	10,000	10,000
	うち一般財源	9,964	9,991	10,000	10,000	10,000
	人件費	0	1,447	1,447	1,447	1,447
	総事業費	9,964	11,438	11,447	11,447	11,447

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった	安全で安心な教育環境の充実のために、不可欠な事業である。
	効率性	A:効率的だった	現地調査や学校からのヒアリングにより、緊急性が高いものから優先して対策を実施した。
②成果に対する評価	指標名	事業対象件数のうち改修や設置などにより改善する学校施設・遊具件数	
	目標	202	件
	実績	208	件
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	
		計画に沿って、事業を進めることができた。	

◎今後の方向性(ACTION)

課題	現地調査やヒアリング等を通じて各学校(園)施設の劣化状況等の把握に努め、計画的に事業を推進する必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H30年度	施設改修や老朽化した遊具の撤去・設置、防犯設備の充実など、児童生徒の安全確保に向けた整備を行うとともに、「防犯カメラ及びセンサーライト」の計画的な配備を進める。			
	H31年度	施設改修や老朽化した遊具の撤去・設置、防犯設備の充実など、児童生徒の安全確保に向けた整備を行うとともに、「防犯カメラ及びセンサーライト」の計画的な配備を進める。			